



兵庫支部 NEWS H15 11月号

北九州市立大学同窓会兵庫支部 編集人 福田 要・安徳信義
URL <http://www.hi-net.zaq.ne.jp/kono> E-Mail k-fukuda@cello.ocn.ne.jp

購読料 12回 1,500円(送料込)
購読のお申し込みは郵便振替
振替口座 00980-2-245822
口座名:北九州市立大学同窓会兵庫支部

10月の兵庫「三金会」



10月16日(第三金曜日)三金会例会は、午後四時より行なわれていた兵庫「囲碁の会」例会に引き続き、午後六時から定例会場のフリージアで行なわれた。

席上名越支部長より、支部規約改正会議を10月開催予定としていたが支部長としての案も未だ作成しておらず、また改正のすすめ方の方途も固まっていない(絵がかけていない)ことで、10月開催できなかったことをご容赦願いたいと発言があった。つづいて、年内には開催したいとの提言には、出席者より12月は忘年会、1月は新年会と行事が重なり、現状とそぐわない規約は早急に、来月にも改正会議を開催することが必要と提議あり、結局10月16日(日曜日)に開催の決定となった。

なお出席者より、現支部役員が神戸地区中心に偏り、また女性役員不在の現状をも考慮して、広く参加者を募り、その意見・提言を求めてはとの提案があったが、まずもって役員会を開催することとなった。

なお、当日の会場については、名越支部長が各役員(平成14年総会承認役員)へ後日召集通知することとなった。(その後、会場は長田勤労市民センターを予約との連絡あった。)

なにはともあれ、懸案であった規約改正に充分の討議が尽くされ、兵庫支部のさらなる発展に資することが期待される。

「囲碁の会」が「関西支部同好会」と交流会開催

S39 米英 銭谷 勘一郎

すっきりと秋の空が晴れわたった10月25日、囲碁の第2回交流会が梅田の囲碁サロン『刻』で行なわれました。

当日午後1時集合、関西支部から6名、わが兵庫支部からは5名が参加しました。なお、関西支部の青木富重氏は試合には参加せず、番外の参考対局とさせていただきます。



和気あいあいのうちに対局も進み、あちこちで勝利して喜び、惜敗して悔しがり、局後の検討局面にも熱が入りました。時のたつのも早く、6時ともなり対局終了。今回は、このあと初めての懇親会となりました。関西支部S32米英都留猛氏に会場設定していただいた居酒屋「弁天茶屋」に席を移し、ビールで乾杯。神戸支部のメンバーから順次自己紹介。その後、お互いに打ち解けて囲碁談義や思い出話、友人知己の最新情報など、大いに盛り上がりました。同窓でもあり、囲碁をとおしてのお付き合い、本当に素晴らしい懇親会でした。今回の交流会でお世話になった都留氏に感謝します。(なお、対戦成績は次ページに掲載。ご一覽下さい)



《自然木高級檜造りの家》

増改築・新築・不動産全般

S 株式会社 瀬戸内ホーム

代表 永翁 正臣
(昭和 41年 商学部卒)

〒671-1103

姫路市広畑区西夢前台6丁目2番地

TEL 0792-36-0833

FAX 0792-36-0905

損害保険・医療保険・がん保険
の総合保険代理店

安心の発信基地

大村保険サービス



代表 大村 実良
(昭和 33年 商学部卒)

〒652-0897 神戸市兵庫区駅南通3丁目4-1-302

TEL078-671-7318 FAX078-671-8316

神戸処々(三)

S31 米英 福田 要

灘の生一本;灘の地名は、何時の頃から呼ばれる様になったかは判然としないようです。考えられることは都から西国街道を下ってきて、初めて海辺に至り、芦屋あたりの灘辺に出会ったことから灘目或いは灘の側(カワ)と呼ばれたようです。のちには、ただ単に灘と略される様になったと思われまます。

17世紀慶長の頃、西摂津伊丹の鴻池村山中氏(鴻池家の祖)が、造った酒を馬の背に乗せて、江戸の町で売り歩いたと伝えられています。この頃は、伊丹・池田辺りの酒造業が盛んであったようです。元禄年間発行された「本朝食鑑」に、諸白(もろはく;清酒)は南都(奈良)が諸国銘酒中第一で、伊丹・鴻池・池田など攝津の酒がこれに次々と書かれています。灘酒が盛大となったのは、江戸時代中期以後のことです。

江戸時代前期は、伊丹の酒=丹醸の時代でもありました。元禄最盛期には、60数万樽の出荷があったそうです。その繁盛ぶりは、井原西鶴の『織留』に「池田・伊丹の売酒ハ水より改め、米の吟味、麴を惜しまず、さばりある女は蔵にいれず、男も替草履をはきて出し入すれば、軒を並べて今のはんじょう」と書かれています。

元禄期を過ぎ18世紀に入ると、伊丹酒(丹醸)を凌ぐ灘の生一本(生諸白)が台頭して来ました。この頃、酒造家の数は伊丹54軒、池田27軒でしたが、すでに西宮では82軒を数えていたと云われます。さらに享保年間には、西に青木・魚崎・御影・脇浜・神戸などでも55軒が酒造元として、名を連ねるようになっていました。

ところで当時、酒造業は幕府の統制下にありました。たまたま享保年間に米価が暴落した時、米価の引き上げを目的に酒造制限令が緩和されました。これを契機にして灘酒造発展の兆しもできました。宝暦5年(1754)には、酒の勝手造りが許されました。天明5年(1785)ともなると「灘三郷(今津・上灘・下灘)」が江戸に占める樽数は、その全量のほぼ半数を数える程になり、北前・松垣・樽廻船へと運送手段も進歩します。

ところで灘酒の隆盛は、技術的に寒造りへの一本化にありました。これによって、それまでの季節による品質のばらつきが無くなり、安定した品質で他の酒醸地に打ち勝ったのです。それまでは、秋彼岸の頃造り始める新酒から、間(あい)酒・寒前酒・寒中造り酒・寒造りと年に幾度も仕込む醸造方法が通例だったようで、季節により品質が不安定でした。これを、最上の品質確保が出来る寒造り一本にして、灘酒は評価を高めました。幕藩体制下では、領主にとっても秋に取り立てた年貢米を売りさばく上で、時期的に好都合でもあったようです。

加えて、決定的な「宮水(西宮の水)」の発見がありました。水の添加量を増やし、延びの効く酒を造ることができるようになったのです。



酒匠館展示 酒蔵の鬼杜氏たち

伊丹酒は蒸し米1石に水5斗1升でしたが、灘酒は水1石を使用できるようになったそうです。宮水は硬度が高く、塩素・硝酸・燐を多く含んでいます。このため醸造・醗酵を助長し、また適度に醗酵を規制もすると言うことです。しかも、夏を越した酒は味の衰えがでるのに、宮水を使った酒はむしろ夏を越して、なお「秋晴れ」と賞賛される芳醇な味となり、江戸の人々に高く評価されたのでした。

それは天保年間、六代目山邑太左衛門が不思議なことに気づいた↑

→ことに始まります。太左衛門の所有していた西宮と灘魚崎二つの酒蔵で造られる酒が、原料の米も蔵の構造も同じなのに、その品質に大きな優劣の差があったのです。

太左衛門は、はじめ二つの酒蔵の杜氏(とじ)たち技量の差ではないかと考えました。しかし、杜氏など蔵人をそっくり入れ替えても、やはり西宮の酒蔵で造られた酒の方が良いことを知るようになります。結局、使用した水以外に違うものは何ひとつなかったのです。

そこで、良い酒の出来ると思われる西宮の井戸水を、樽で魚崎に運び、灘の酒造りに使用してみました。ついに、西宮の水で造られた酒が良い酒を造ることを発見、その水を「宮水」と呼ぶ様になります。

彼、太左衛門は、次に酒米の精米に留意する様になりました。六甲より流れ下る急流を利用した水車場で、真っ白になるまで搗きに搗いた酒米で醸造して見ました。でも、ひと口飲んで失望するほかありませんでした。その淡白な味の酒は、売りに出される様な代物ではないと思われるほどでした。それでも、仕方なく江戸に積み出すと、日が経つにつれコクが加わり、なお所謂「秋晴れ」と云われるすっきりとした味となり、酒米精製の吟醸酒「灘の生一本」の評判を大いに高めました。

ちなみに私は、お酒を嗜みませんので、この項はこの位に……。布引の滝;新幹線新神戸駅の裏手で、芋川(おがわ)が生田川に注ぐ合流点の北に、砂山(いさごやま;砂子山)と呼ぶ小山があります。その昔、生田の神様が祀られていたところでした。その名は布引丸山とも呼ばれる小山です。駅から坂を登ると、左に瀧山城址の碑があります。室町期の赤松円心、戦国末期の松永久秀ゆかりの城跡と知れています。

その城址の碑から200m程に、高さ14mの雌瀧、さらに200mほどで高さ43mの雄瀧を望むことが出来ます。その間、鼓ヶ瀧・夫婦瀧などもあります。六甲の瀬(かわうそ)池に発した流れは、摩耶・再度(ふたたび)山の谷水を集めてトゥエンティークロスを南下し、ここ巨岩の間から落下します。その後、流れは新生田川となり、新大阪駅をよぎって海へと注いでいます。この布引の瀧は、那智の瀧・華嚴の瀧と並んで三大神瀧と崇められ、平安の昔から貴人・歌人の訪れ多く、歌にも詠まれて物語・紀行文などに膾炙されること枚挙に暇ありません。

なかでも平城天皇の皇子阿保親王は、摂津菟原(うなひ)郡芦屋の里に所領があり、打出の親王塚がその御墓と云われていますが、親王の子在原行平・業平兄弟も、芦屋に寓居して不遇の身を託つ時期がありました。その頃、兄弟の一行が布引の瀧見物に出かけた様子を『伊勢物語』に読むことができます。

「砂(いさご)の山の上にとありといふ布引の瀧見に登らむ、といひて登りみるに、その瀧ものより異なり。長さ二十丈、広さ五丈ばかりなる石の面、白絹に岩を包めらむやうになむありける」と。

明治5年頃、花園社が瀧の周辺を布引遊園地とし、瀧の名歌を碑に刻み行楽客を呼んだことがありました。現在遺されている歌碑は、

- 藤原定家; 布引の瀧のしらいとなつれば絶えずぞ人の山ぢたづめる
- 九条基家; あしやの砂子の山のみなみをのまはりて見れば布びきのたき
- 藤原行成; 布引の瀧の白糸づらばこ訪ひ来る人も幾代終らむ
- 藤原俊成; いかにれや雲見見えぬ五月雨こさらし添らむ布引の瀧
- 藤原良経; 山人の衣なるらし白妙の月に晒せる布引のたき
- 藤原良青; 音にのみ聞きしはことの数ならで名よりも高き布引の瀧
- 藤原忠通; さらしけむ甲斐もあるかな山姫のたづねて来つる布引の瀧
- 寂蓮法師; 岩はしるおとよま水こござされて松風おつる布引のたき
- 源 俊賴; 山姫の嶺の梢こひきかすて晒せる布や瀧の白波
- 紀 貫之; 松の音琴こ調ぶる山風は瀧の糸をやすげて弾らむ
- 藤原家隆; 幾世とも知らぬものは白雲の上より落つる布引の瀧
- 順徳院; たち縋まぬ紅葉の衣そめ出でて何山姫のぬの引きの瀧
- 在原行平; 我世をば今日か明日かと待つ甲斐の涙の瀧いづれ高き
- 在原業平; ぬきみだる人こそあらし白たまのまなくもちるこそでの狭きに
- 在原行平; こきらすたきのしら玉おきて世のうきときのなみだにこそ

以上15基の歌碑を道すがらに読むことができます。

また滝は、修験者の行場でもありました。しかし明治33年、上流に上水道の貯水池が造られて谷水を貯め、滝への流水量を少なくしてからは水勢も弱まり、以前の景観は大分に削がれと云われます。

明治期以後、訪れる外国人たちは、まず最初に、この瀧を訪れたということです。付近には神戸人形や七宝焼きの土産物店も並んでいたそうです。

「1年の半分をNZ(ニュージーランド)で過ごしています」 (二)

S34 米英 井上 孝



MOUNT COOK

前回に引き続き、NZの印象に残ったことを at random に書きます。

この国では、絶えず偏西風が吹いているので、一旦雨が降り出しても、すぐに晴れることがよくあります。洗濯物を乾かしていても、すぐには取り入れません。すぐに晴れることが解かっているからです。また、誰に聞いても「NZに、蛇は一匹もないよ」と教えてくれます。

セカンドハンドの衣類を、再利用するシステムがあります。スーパーマーケットなど、人の集まる場所に大きな箱が置いてあり、お古を入れておくと、ボランティアの人が取り出し仕分けし、セカンドハンド・ショップで安い値段で売られます。そして売上金は福祉施設に寄付されます。また、博物館や展示館などの殆んどが訪問者たちの寄付で運営されています。

ところで、少し町から離れたところに家を建てると、水道を引くことが難しいので雨水を蓄え、大切に生活水にしている知人がいます。

NZではお昼のランチに、よく“fish & chips”が利用されます。中華料理店などに行き“take away (英、日米; out、お持ち帰り) します。安く美味しく、ボリュームもあります。

NZで“TEA”はお茶の意味のほかに、しばしば軽食の意味に使われます。お昼や三時また夕食時にも、ジュースやお茶を飲みながら、おしゃべりを楽しみます。

“smorgasbord(<Sw.)”は、日本のバイキング料理と同じです。これを提供するレストランは至るところにあって、料金は安く美味しい。私達もよく利用しますが、さらに嬉しいことに、シニア割引があって60才以上の人は誰でも、ディスカウントして貰えます。非常に有難い制度だと思っ感謝しています。

ある時、野外コンサートを聞きに行った時のこと、私のすぐ前をNZのヘレン首相が歩いて行くのを見たことがあります。驚きました。日本ではこんなことはありませんね。

自動車保険を契約する時、免許証が国際免許では保険金が割高であることを知りました。ところで、モーテルの宿泊は、一部屋代金で支払います。一部屋に一人泊まっても五人泊まっても同じ料金とは素晴らしいことですね。

クリスマスセールには、50%引き、時には70%引きの場合さえあります。「どうしてこんなに安くなるの?」と店員に聞くと、さすがにクリスチャンのお国柄、「いつもお客さんに買って頂いています。クリスマスは特別の日ですから、利益よりも幸せを分かち合うことを目的にしています」と聞かされました。

学校には校区がないようで、一日体験入学(父母参観)して自由に学校を選ぶことが出来ます。小学校に通う子供を持つ家族は、必ず自動車を送り迎えます。子供を災難から守るためです。歩いているのは、本当に学校近くに住んでいる生徒です。

最後に、心暖まる経験をしました。自動車旅行をしていたとき、運悪くタイヤがパンクしました。人家も遠く、友人から借りた車にはジャッキの備えもありません。途方にくれていると、車が一台通りかかりました。車から女性が降りて来て、「どうしたのですか」と親切に尋ねてくれまし↑

第25回「歩こう会」例会 予告

紅葉狩り 箕面溪谷 散策

11月9日(第2日曜)

阪急三宮東改札口 AM10時集合

平坦な道で 子供さんにも楽なコースです。

皆さんの御参加をお待ちします

囲碁交流会対戦成績(1段級差1子のハンデ戦)

神戸支部囲碁の会

関西支部囲碁同好会

| | |
|-----------------|----------------|
| 銭谷勘一郎二段 3勝2敗 | 茨木 幹夫六段 3勝2敗 |
| 平間 正昭初段 3勝1敗1ジゴ | 長谷部 新五段 2勝3敗 |
| 山本 信司二段 3勝1敗 | 都留 猛三段 3勝1敗1ジゴ |
| 名越 英昭五級 3勝2敗 | 村上仁春二段 1勝1敗1ジゴ |
| 河野 旺生六級 1勝4敗 | 井上 治人一級 1勝4敗 |

→た。パンクして、ジャッキなしで困り果てている事情を話すと、「大丈夫、心配しないで」と、自分の車から工具を取り出し、ジャッキで私達の車を上げ、スペアを取り替えることができました。

このとき、彼女は指を少し怪我しましたので、私達が持っていたバンドエイドで手当しました。彼女が立ち去ろうとした時、お礼にと思い、少々の志を差し出しました。

ところが彼女は、「それは受け取れません。誰もが、こんな思いも寄らぬことがあるものです。私もそんな時、誰かが助けてくれるでしょう。だから、お互い様ですよ」と云って受け取って呉れません。

それでは、私たちの気が済みません。ほんとうに困っているところを助けていただいたのですと、無理に彼女の手にお金を押し込みました。彼女は、「それでは、母が病気ですので、母にあげます」と云って笑顔で立ち去りました。

その優しい顔と親切は、私たちには忘れられません。彼女の親切に心から感謝し、その後、私達は良い心地で旅を続けることが出来ました。皆さんも良い経験に恵まれ、生き甲斐のある人生を楽しんでください。皆様の上に神の祝福がありますように、祈っています。



左 NZの 富士
Mt TARANAKI
下 BEEHIVE &
PARLIAMENT
BUILDING



「歩こう会」10月例会



「東お多福山」行

S38 米英 二宮 慶治郎 記

「歩こう会」10月第24回例会を、12日に行なった。高尾巖氏の前もつての下見調査で、歩きやすいルートであった。出発集合時間の10時30分、あいにくの雨模様を心配しながらバスに乗る。

同乗の有馬へ行くという学生たちが、バス半分を占拠して超満員の車内は蒸し風呂状態。しかも傍若無人のおしゃべりで五月蠅かったが、皆さんじっと我慢。バスは少々到着時間に遅れ、終点登山口に着いた。

半年まえ、登山中の足首捻挫で暫く登山から遠ざかっていた藤田博保顧問が挫傷も癒え、敢えて足慣らしと称してバスに同乗もしないで、出発一時間半前から芦屋川を出発。ロックガーデン・風吹き岩・雨ヶ峠と登りの難路をへて、既に合流地点の登山口で我々を待合わせていた。

おりしも雨が降り始め、レインコートをまとっての準備体操となったが、我々は孝行者ばかり、幸い雨も止んできた。勇躍、11時15分登山口を出発。行路40分ほどで、「東お多福山」697mの山頂に到達した。

昼食後、KKUの現状についての話題(女子学生の多くなったこと、法人化についての将来など)を語り合い、やがて1時を聞く頃に下山開始。

なだらかな気持ちよい高原の草原を20分ほど歩き、「雨ヶ峠」をへて「風吹き岩」につく頃には、青空さえ見え始めた。この帰り道は藤田顧問が登ってきた道で、道すがら芦屋市や大阪市を一望出来、すばらしい見晴らしを楽しむことが出来た。向こうの山腹には奇岩が散在し、ロックガーデンと呼ばれる岩屏風を並べたような風景を眺めることができた。

これより下りは、昨年登山した金鳥山・保久良山を逆に辿り、阪急岡本駅に3時30分帰着。無事、本日行程をおえての解散となった。

参加者は、毎回なじみの仲間不参で、少々淋しい例会であった。参加者：藤田・高尾・名越・平間・二宮・前原・長岡・山田・野田の各氏。



左 風吹き岩にて休息
下 風吹き岩からの眺望



「ゴルフの会」



松山氏 久々の優勝なる

S44 尚 安徳 信義 記

20回記念大会を迎えた当日は、雨で順延となった前回とは打って変わり、秋日和・ゴルフ日和となり絶好のコンディションを迎えることが出来ました。

参加者は12名。ティーアップしてフォームの確認に余念の無い馬場氏。低い弾道が持ち味の河野氏。堅実なゴルフで流れるようなフォームの山本氏。3連覇なるか楠本氏。姫路から満を持しての久し振りに参加の永翁氏。前回初参加と言うことで2位に繰り下げとなり悔しい思いを糧にリベンジなるか、ビジターで地主さんの謝さん。また44年卒同期の長瀬・久芳・松山の各氏と安徳に、今回初参加の山田・澤田両氏を加えた6名。皆さん3組に分かれ、賑やかなスタートとなりました。

さて本日の活躍風景は、次ぎのゴルフ会ホームページ

<http://www.ethnic.co.jp/sankin-golf.htm>

の最終行から5段目の「第20回コンペ詳細」をクリックくだされば、今回のメンバー・各組各人の雄姿を御覧になれます。また

<http://www.ethnic.co.jp/sankingolfseiseki.xls>

では、今回までの各回成績表を御覧になれます。

なお今回、次の方々から商品ならびに金一封を寄贈していただきました。

大村さん：¥10,000、二宮さん：ドイツ製缶ビール2ケース、

前原さん：¥3,000、福永さん：サントリー飲料、

フリージアさん：レミーマルタン。

いつもながら皆様のご厚情・ご支援に感謝致します。

次回第21回は場所未定ですが、来年3月24日(水)の開催を予定していますので奮ってご参加ください。詳細は後日お伝えします。

アメリカ合衆国文学逍遥

M. Twain Study
Elmira N.Y.

S31 米英 福田 要 著

作家と風土、その作品梗概&WRITERS PERMANENT ADDRESS
CD 版本文 302 頁 ¥1,000(送料共) k-fukuda@cello.ocn.ne.jp 迄

